

## Jonah: God's Grace in The Deep | Running From God's Word (Jonah 1: 1-17)

今日から、ヨナ書についての新しいシリーズを始めます。ヨナは列王記第二14:25に登場します。ヨナはイスラエルの北の王ヤロブアム2世の治世に預言をしました。この出来事は、紀元前786年から746年にかけて起こったと考えられています。この1節では、ヨナは神様の言葉を聞いて、大都市ニネベに行くように言われたのです！しかし、ヨナはどのように答えるのでしょうか？ 私たちはこの街で、神様の呼びかけにどのように応答するのでしょうか？ 私たちはこの箇所ですべての事を学びます。a) 都に行くようにという神様の呼びかけ。b) 神の私たちの計画に対する聖なる中断法。c) 私たちを救ってくださる神様の恵み。

### a) 都に行くようにという神様の呼びかけ。

1 アミタイの子ヨナに次のような主のことばがあった。2 「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。」3 しかしヨナは、主の御顔を避けてタルシシュへのがれようとし、立って、ヨッパに下った。彼は、タルシシュ行きの船を見つけ、船賃を払ってそれに乗り、主の御顔を避けて、みなといっしょにタルシシュへ行こうとした。4 そのとき、主が大風を海に吹きつけたので、海に激しい暴風が起こり、船は難破しそうになった5 水夫たちは恐れ、彼らはそれぞれ、自分の神に向かって叫び、船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。しかし、ヨナは船底に降りて行って横になり、ぐっすり寝込んでいた。6 船長が近づいて来て彼に言った。「いったいどうしたことか。寝込んだりして。起きて、あなたの神にお願いしなさい。あるいは、神が私たちに心を留めてくださって、私たちは滅びないですむかもしれない。」

1節に、"アミタイの子ヨナに主のことばがあった"とあることに注目してください。神の言葉はすべて応答を要求するのです。神のヨナに対する任務は、"あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前に上って来たからだ。" (2節) でありました。ニネベ (現在のイラク) は、ノアの曾孫であるニムロド (創世記10章) によって築かれました。ヨナの時代以降、ニネベはアッシリヤ帝国の首都となり、イスラエルにとって大きな脅威となりました。

ナホム書には、ニネベがいかに邪悪であったかが克明に記録されてあるのです！ここでは、ニネベが「あの偉大な都市」であることが語られていますが、同時にその偶像崇拜でも知られています。ニネベの人々はイシュタルという愛と戦争の女神を崇拜していました。ここは罪の町だったのです。

しかし、ヨナはどのように対応するのでしょうか。3節によると、ヨナは「主の御顔を避けて」逃げました。彼はタルシシュ行きの船でヨッパに下った。ヨナは神の言葉

から逃げただけではありません。その偉大な都市における神の使命から逃げているのです。私たちの街に対する態度はどうでしょうか？ 私たちは、神様の任務から逃げているのでしょうか？ あなたは仕事から仕事へ、街から街へ、国から国へ、教会から教会へと逃げるすることができます！

しかし、あなたは神の臨在から逃げることができますでしょうか？神様の使命から逃げることも隠れることはできません！ヨナに対する神の計画は、ニネベの罪を「呼び起こし」、彼らを悔い改めさせることだったのです！神は、あの偉大なニネベの町を愛しておられました。そして、この東京という大都市も、神様は愛しておられます。しかしヨナは、アッシリアがイスラエルの敵であったため、逃げてしまいます。あなたの職場や家庭や近所、大学にいる人で、神様があなたに話すように言っている人は誰ですか？

3節にヨナは"ヨッパに下った"とあることに注目してください。そして、彼は船に乗って行きました。あなたは神様の臨在からどれだけ深く隠れることができますでしょうか？4節に「そのとき、主が大風を海に吹きつけたので、海に激しい暴風が起こり、船は難破しそうになった。」とあります。多くの人は、神は嵐を止めるだけで、嵐を送らないと思っているようです。"そのとき、主が大風を海に吹きつけたので、海に激しい暴風[嵐]が起こり、船は難破しそうになった。"とあります。

神はその主権において、しばしば嵐を送り、私たちの偽りの安心の土台を揺るがすのです。ヨナが安全だと信じていた船は、今や沈没の危機にさらされているのです！神とかくれんぼをすることはできないのです！もし私たちが神の任務を無視するなら、私たちが究極の安全として信頼しているものが揺らいでしまうのです。

5節には、「水夫たちは恐れ、彼らはそれぞれ、自分の神に向かって叫び」とあります。私たちは、周りの人々の叫びを聞いているのでしょうか？異教徒の船員たちも恐れて、自分たちの神々に叫び始めたのです。彼らの神々はどこにいらっしゃるのでしょうか？

偽りの神々は決して救わないのです！お金や仕事、キャリアで神を作っても、私たちの安全は守れません！それで彼らは「船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。」のです。いいですか、神が嵐を起こしたのなら、何も我々の重荷を軽くすることはできないのです！安全で安心できる唯一の方法は神のもとに走ることであり、神から逃げないことではないのです。では、ヨナはどこにいらっしゃるのでしょうか？

5節によると、「しかし、ヨナは船底に降りて行って横になり、ぐっすり寝込んでいた。」とあります。ヨナは船の内側に安らぎを求めているのです。あなたは神の臨在からどこまで隠れることができますでしょうか。一晩で安全が破られることを知らずに熟睡するのは危険です。

そこで船長は言いました。「いったいどうしたことか。寝込んだりして。起きて、あなたの神にお願いしなさい。あるいは、神が私たちに心を留めてくださって、私たちは滅びないですむかもしれない。」と。皮肉なことに、異教徒の船長は祈るために神の人を起こさなければならなかったのです。人々が自分の人生に絶望している間、神の民はしばしば眠っているのです。そこで、神はヨナを霊的無関心から目覚めさせるために嵐を送られたのです。次にこのことを見ていきます。

#### b) 神の私たちの計画に対する聖なる中断法。

7 みなは互いに言った。「さあ、くじを引いて、だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったかを知ろう。」彼らがくじを引くと、そのくじはヨナに当たった。8 そこで彼らはヨナに言った。「だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、告げてくれ。あなたの仕事は何か。あなたはどこから来たのか。あなたの国はどこか。いったいどこの民か。」9 ヨナは彼らに言った。「私はヘブル人です。私は海と陸を造られた天の神、主を礼拝しています。10 それで人々は非常に恐れて、彼に言った。「何でそんなことをしたのか。」人々は、彼が主の御顔を避けてのがれようとしていることを知っていた。ヨナが先に、これを彼らに告げていたからである。11 彼らはヨナに言った。「海が静まるために、私たちはあなたをどうしたらいいのか。」海がますます荒れてきたからである。12 ヨナは彼らに言った。「私を捕えて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。わかっています。この激しい暴風は、私のためにあなたがたを襲ったのです。」

さて、くじ引きとは何でしょうか。彼らは「さあ、くじを引いて、だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったかを知ろう。」と言いました(7節)。くじは、物事を決めるときに使う容器に入った小さな石のようなものです。今日でいう最も近い例は、コインをはじくことです。そこで、ヨナにくじが当たりました。これは偶然の一致でしょうか。いいえ、そうではありません。箴言(しんげん) 16:33に「くじは、ひざに投げられるが、そのすべての決定は、主から来る。」と書かれています。くじを引くと必ず神様の御心がわかるということではありません。私たちの人生の出来事を支配するのは、最終的には神なのです。神が"大"嵐を送られたときから、神の聖なる混乱が始まっていたことを思い出してください。そして今、神は不信仰な者たちを使って、ヨナに質問を浴びせようとしています。彼らは「8 だれのせいで、このわざわいが私たちに降りかかったのか、告げてくれ。」と言いました。

これは昔からある質問ですよ？ この世界が悪と苦しみに満ちているのは誰のせいなのでしょうか？ 私たちが知っている世界は、本来あるべき姿ではないのです！ 私たちを造られた神のもとに戻るまでは、人生の最も重要な質問の答えを見つけることは

できないでしょう。そこで船員たちはヨナにこう問いかけ続けました「あなたの仕事は何か。あなたはどこから来たのか。あなたの国はどこか。いったいどこの民か。」

ヨナは神の使命から逃げ、船の内側に隠れることだけを考えていたのです—内向的な人みたいに！しかし、彼は今、個人的な快適さを超えて、不信心者たちから、神についての会話に参加するよう質問されています。彼が避けようとしていた会話が、今、彼の前に立ちはだかっているのです！私たちの多くは、神への信仰に関する質問を避けたいと思うのではないのでしょうか？もし職業や出身国について聞かれたら、簡単に答えることができます。私たちの仕事と民族が安心感を与えてくれるからです。

しかし、ヨナは答えました（9節）。「私はヘブル人です。私は海と陸を造られた天の神、主を礼拝しています。」わかりますか？ヨナは自分がヘブライ人であることをかなり誇りに思っていたのです。しかし、ニネベから逃げることは、不信心者とのこのような会話を避けるための方法だったのです！彼は今、自分の信仰について話すように追い詰められています。彼は言いました。「私は海と陸を造られた天の神、主を礼拝しています。」船員たちは、明らかにヨナと神との関係に問題があることを理解しました。そこで10節には、「それで人々は非常に恐れて、彼に言った。「何でそんなことをしたのか。」人々は、彼が主の御顔を避けてのがれようとしていることを知っていた。」とある。船員たちは、ヨナが罰に値するとさえ認識しています。彼らは「何でそんなことをしたのか。」といいました。これは聖なる中断です。もしあなたがいつも神様のことを人に話すのを避けているなら、神様はあなたのために方法を見つけてくれるでしょう。

教会を変え、仕事を変え、場所を変えて逃げることもできますが、もし神があなたの心の問題を扱っておられるなら、神はあなたの周りの人々をお使いになります。あなたの周りの自然、人、出来事を使って、あなたを告白と悔い改めの場所に連れて行くでしょう。そして、船員たちは11節でヨナに「海が静まるために、私たちはあなたをどうしたらいいのか。」と言いました。「海がますます荒れてきた」とあります。これがわかりますか？ヨナも、異教徒も誰も神が送られた嵐を静めることができませんでした。そして、ヨナは最後にこう言いました（12節）。「私を捕えて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。」ヨナは自分が神の正しい裁きを受けるに値することを知っている。彼は「わかっています。この激しい暴風は、私のためにあなたがたを襲ったのです。」と言います。彼は「わかっています。この激しい暴風は、私のためにあなたがたを襲ったのです。」と言います。悔い改めは、神を信じると主張する人たち、すなわち私たちから始まります。

悔い改めは、福音を信じると言いながら、福音を伝えようとしない私たちから始まるのです。もう隠れることも、逃げることもできないのです。ヨナの計画は中断されます。彼の心はさらけ出されたのです。「わかっています。(中略)私のために」と彼は

言います。自己防衛も自己正当化もありません。ただ、心を開いて正直に告白したのです。ヨナは、父親から逃げた放蕩息子(ルカ15章)のような放蕩預言者なのです。

私たちが神から逃げると、神は私たちを追い越します。私たちが神の任務を避けると、神は私たちを悔い改めさせようと、私たちの計画を中断されるのです。なぜなら、人々の命が危険にさらされているからです。神なしには、他の人々が滅びてしまうのです。ですから、満たされる唯一の方法は、神の使命から逃げずに、神の使命に加わることなのです。最後にこれを見ていきます。

### c) 私たちを救ってくださる神様の恵み。

13 その人たちは船を陸に戻そうとこいだがだめだった。海がますます、彼らに向かって荒れたからである。14 そこで彼らは主に願って言った。「ああ、主よ。どうか、この男のいのちのために、私たちを滅ぼさないでください。罪のない者の血を私たちに報いないでください。主よ。あなたはみこころにかなったことをなさるからです。」15 こうして、彼らはヨナをかかえて海に投げ込んだ。すると、海は激しい怒りをやめて静かになった。16 人々は非常に主を恐れ、主にいけにえをささげ、誓願を立てた。17 主は大きな魚を備えて、ヨナのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。

さて、ヨナは自分が死に値すると思っているが、異教徒の船員たちは彼を投げ出そうとはしなかった。13節には、「その人たちは船を陸に戻そうとこいだがだめだった。」とあります。もし神が嵐を送ったら、神以外の誰も救うことができません。"海がますます、彼らに向かって荒れたからである。"とあります。どんなに努力しても神と争うことはできなかつたのです。人間の努力では、神から私たちを救うことはできないのです！神だけが嵐を静めることができるのです。ですから、14節には、「そこで彼らは主に願って言った。「ああ、主よ。どうか、この男のいのちのために、私たちを滅ぼさないでください。罪のない者の血を私たちに報いないでください。主よ。あなたはみこころにかなったことをなさるからです。」」とあります。

彼らが、「主よ。あなたはみこころにかなったことをなさるからです。」と言ったことに注目してください。船員たちは、神様が与えてくださったことを認めています。そこで、15節では、「こうして、彼らはヨナをかかえて海に投げ込んだ。すると、海は激しい怒りをやめて静かになった。」とあります、「海は激しい怒りをやめて静かになった。」と書かれています。神が起こした荒れ狂う海が、今は穏やかになっているのです

16 節、「人々は非常に主を恐れ、主にいけにえをささげ、誓願を立てた。」"彼らは主を非常に恐れた"と書いてあります。神への畏敬の念を抱いていたのです。私たちの最大の問題は、私たちの外側にあるのではなく、私たちの内側にあるのです。不信

仰は私たちが永遠に神から引き離すことができ、それは暴風で死ぬよりもはるかに悪いことです。彼らの神々が沈黙している間、イスラエルの神は与えてくださいました。そして(17節)、「主は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。」とあります。

ここで、何がそんなにすごいのでしょうか？ヨナは自分が溺れて死ぬと思ったのです。しかし、神は彼を救いに来られたのです！神は反抗的な預言者に恵みを示されたのです。彼は「大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。」のです。

ヨナは死ぬことなく、3日3晩で救出されたのです。新約聖書のどこに、このようなことが書かれているのだろうか。ヨナは神から遣わされましたが、背き、逃げました。イエス様は神様から遣わされましたが、私たちのために従順に來られました。ヨナは嵐の中、眠っていました。船員たちは祈りを求めました。しかし、ヨナは嵐を静めることができなかつたので、神様は大きな魚を用意しました。イエス様も嵐の中、船の中で眠っておられました。イエス様の弟子たちは助けを求めて叫びました。そして、イエス様は嵐を静められたのです。マタイ8:27によると、弟子たちは「驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」」マタイ12章では、宗教指導者たちがしるしを要求したときに、こう書かれています。

39. しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。40. ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。41. ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。

3章にあるように、ニネベはヨナの説教で悔い改めました。しかし、イエスが、神が悪の世代に与える唯一のしるしはヨナのしるしだと言っていることに注目してください。40節、「ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。」

ヨナより偉大なものが今日ここにいるのです！ヨナは神の嵐を鎮めるために船から投げ出されました。しかし、イエス様こそが真のヨナであり、より優れたヨナなのです。イエス様は十字架の上で、神様の怒りの究極の嵐に投げ込まれました。ヨナが3日3晩魚の腹の中にいたように、イエス様も3日3晩葬られました。イエス様は3日目によみがえり、私たちに罪の赦しを与えてくださいました。イエス様は、私たちに救いに來てくださったヨナよりも偉大な方です。

ヨナは不従順のために嵐に投げ込まれました。イエス様は、私たちの不従順のために、究極の嵐に投げ込まれたのです。ヨナが海に投げ込まれたのは、彼が神から逃げ出したからです。私たちも神の裁きの嵐に投げ込まれるに値するのです！

しかし、イエスは、神ご自身から私たちを救い出すために、究極の嵐の中に投げ込まれました。十字架の上で、神の裁きがイエスに下されたのは、それが私たちに及ばないようにするためです。イエス様の従順な犠牲のおかげで、神様は私たちに恵みを示してくださっているのです。ですから、もしあなたが逃げたり、避けたり、隠れたりしているなら、今、あなたは神との平和を持つことができます。

逃げるのをやめて、神のもとに戻ることができるのです！神の恵みは、私たちのすべての罪や反抗よりも深いのです！私たちは今、逃げるのをやめて、イエスを知らせるという神の使命に参加することができます。

勇気と思いやりをもって、祈りと愛を持って、職場や近所やスーパーや大学、カフェに行き、会話を始めることができます！